

地元の宝を守り次代へ継承



八杵神社氏子総代

文化遺産の保存などの取組を顕彰する「読売あをによし賞」において、6月3日、八杵神社氏子総代（長生町）が第14回の第1席にあたる本賞に選ばれました。

県南随一の豊沃な土地である阿南で、中でも稲作が盛んだった長生地区は、平安時代、近辺まで海が迫っており、近くの船着き場から京へと米を海上輸送していました。同神社は、延喜式神名帳に式内小社の一つとして記載されるほどに歴史は古く、航海の安全を祈願する神社でもありました。本市で唯一、国指定重要文化財（二品家政所下文・法華経、男神立像）を所有しています。

※延喜式神名帳：延長5年（927年）にまとめられ、当時官社に指定されていた全国の神社一覧のこと。

かつては常駐していた神職も、戦後は周辺の神社を1人の神職が兼務するようになったため、住民が神社の管理を担うようになりました。



年2回、下文と法華経の虫干しを実施。



修復された法華経1巻。藍染の和紙と真ちゆうの金泥の美しい対比がよみがえった。



積極的に境内維持（清掃・雑木伐採等）に努める。



法華経の修理完成を祝い、披露式典を開催。

以来、同町宮内の約30世帯から、氏子総代5人が選ばれ、清掃活動等の環境整備や秋祭り・奉納等の神事運営にあたっています。また、文化財の保存や修復、定期的な虫干し、収蔵庫内のかび取り作業、防犯・防災訓練等を実施。特に、法華経の劣化にあたっては、氏子が一致団結して取り組み、補助金および助成金を受けるなどし、修復を成し遂げました。その成果として、長生公民館で修理完成披露式典や特別公開を開催し、市内外から300人以上が来場しました。

氏子総代表の近藤敏尚さん（78歳）は、「長年黙々と神社の維持・管理をしてきたことが認められ、今回受賞となった。文化財の経年劣化やかびの発生という困難にも直面したが、地元や市、県、国、住友財団など多くの支援・協力のおかげで対策を講じることができた。今後も地元の宝を守り、次の世代へ継承していきたい」と話し、文化財保護意識の啓発に取り組む意欲を見せました。

発行 令和2年（2020年）9月1日【746号】
編集 阿南市企画部秘書広報課 阿南市富岡町ノノ町12番地3
印刷 太陽高速印刷有限公司
☎ 0884-22-1110 FAX 0884-22-4090
e-mail: hshiso@anani.tokushima.jp

人口 72,043人（92） 世帯数 31,173世帯（+4）
世帯数 (男) 34,983人（36） (女) 37,060人（56） 令和2年7月末現在 カッコ内は前月対比